

5 m 程度である。

② 使用上の注意

ア. 地中温度を測定するときは、図-71のように感温部が直射日光を受けな
いようにくふうする。

イ. リードワイヤーの損壊を防止するために、設置場所付近に絆曲いなどし
ておく。

ウ. 本体（記録部）は百葉箱内など安全な場所に設置する。

エ. 付属の小歯車の交換で7日用と1日用に変えられる。

オ. 示度の調整は記録計の腕の元のネジで行う。

(6) 風向計・風速計

風向計・風速計には、設定のし方で次のような種類があります。

風向計 …… 取付け式、台付、手持ち式

風速計 …… 取付け式、台付、手持ち式

風向風速計 …… 取付け式、台付、手持ち式

学習活動に多く用いられている種類は風向風速計の台付です。

① 風向風速計の構造

風向計と風速計がセットされており、上段に風向計があり下段に風速計が
セットされてある。矢羽根や風杯が針先軸受支持型と、ベアリング支持型と
があり、一般に風杯はビスねじどめと、かしめ型とがあります。

風向計は極めて簡単な構造で、最近では2枚羽
根のものが多く（1枚羽根は振動しやすい）、
2枚羽根の二等分線の方向が風向に台致する。

風速計は十字形のもので、さき半球状の風
受けをつけてある。これを風杯といいます。
風に当たると凸面と凹面の空気の圧力の差に
よって回転する。その回転の数によって風速
を計るのです。

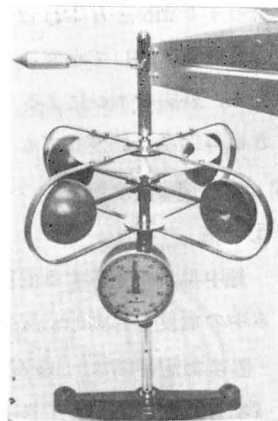


図-72

② 風向 風速の測り方

ア 風向は風向指針が左右に揺れているとき
はその中間の方位を読みとる。

イ 風速は11分前から10分間の平均風速を測定します。